

## 情報公開文書

聖隷三方原病院では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、通常の診療で得られた検体やカルテ記録を利用することによって行います。このような研究は、文部科学省・厚生労働省の「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」の規定により、対象となる患者さんのお一人ずつから直接同意を得るのではなく、研究内容の情報を公開することが必要とされております。この研究の計画や方法について詳しくお知りになりたい場合、この研究に検体やカルテ記録を利用することをご了解いただけない場合など、お問い合わせがありましたら、以下の「問い合わせ先」へご照会ください。

[研究課題名] 当院における着用型自動除細動器装着患者の退院後装着状況に関する後ろ向き観察研究

[研究機関名] 聖隷三方原病院

[研究機関の長] 山本貴道

[研究責任者] 福川竜也 (リハビリテーション部・理学療法士)

[研究の概要]

■ 目的・方法

研究期間：2026年3月10日～2028年12月31日

目的：本研究は、当院で着用型自動除細動器（WCD）の使用が検討された患者さんを対象に、退院時の導入状況や退院後の装着状況について、診療で得られた既存の情報をもとに検討するものです。本研究により、WCDのより良い支援方法や教育体制の改善につなげることを目的としています。

方法：カルテからの情報収集をもとに実施する後方視的な観察研究です。

■ 対象となる患者さん

2023年1月1日～2027年12月31日の間に、当院で着用型自動除細動器（WCD）の使用が検討された方（左室駆出率が35%以下など主治医が必要性を判断した方）を対象とします。

■ 研究に用いる試料・情報の種類

本研究では、新たな採血や検体採取は行わないため、試料は使用しません。診療の中で記録された既存の情報（電子カルテおよび着用型自動除細動器（WCD）の装着記録）を用います。具体的には、年齢・性別・身長体重などの基本情報、心臓の状態に関する情報（左室駆出率）、診断名、併存疾患等）、入院中に通常診療として行われた評価（機能的自立度評価（FIM）、握力、認知機能検査（MMSE）、うつ症状の評価（PHQ-9）等）、WCDの教育内容や理解度、退院時の導入状況、退院後の装着時間、装着中止の有無や理由、再入院の有無等を使用します。

[問い合わせ先および研究への利用を拒否する場合の連絡先]

社会福祉法人 聖隷福祉事業団 総合病院 聖隷三方原病院

リハビリテーション部 福川竜也

電話 053-436-1251 FAX 053-438-2971